TOSHIBA

2001年4月16日(Rev.1)

お客様各位

TS−F−0618　1／5

FA3100／FA3100A／FP3100シリーズ RASサポートソフトウェア（WindowsNT®版） V01．0Aでの 新機能について

株式会社　東芝　社会インフラシステム社
制御・計測マーケティング部
産業用コンピュータ担当

いつもお世話になっております。
日頃は東芝産業用パソコンをご利用いただき、誠にありがとうございます。

WindowsNT版（Windows2000も含む）RASサポートソフトウェアの新バージョンV01．0Aは、前バージョンV01．09から以下の機能が追加されました。

（1）シミュレーション機能
（2）RASメモリ診断機能
（3）初期ユーザWDT機能
（4）ユーザパワーオフコマンド

次ページ以降に、各々の機能の概要について紹介いたします。

なお、RAS機能の詳細内容については、RASサポートソフトウェア（WindowsNT版）説明書（TBK−8858H）をご参照くださるようお願いいたします。

今後も東芝製品のご愛顧をよろしくお願いいたします。

【商標】
- Intel Inside ﾛｺﾞ、Pentium、および MMX は、Intel Corporation の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- 本ｶﾀﾛｸﾞに記載の商品の名称は、それぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。

問い合わせ先　㈱ 東芝 社会インフラシステム社
制御・計測システム事業部 制御・計測マーケティング部 産業用コンピュータ担当
TEL：03−3457−4734　FAX：03−5444−9409
http://www3.toshiba.co.jp/ccc/ing/denkei/sancon.htm

（1）シミュレーション機能

＜起動方法＞　「ステータス」ウィンドウ（図1）の[シミュレーション]ボタンから起動します。

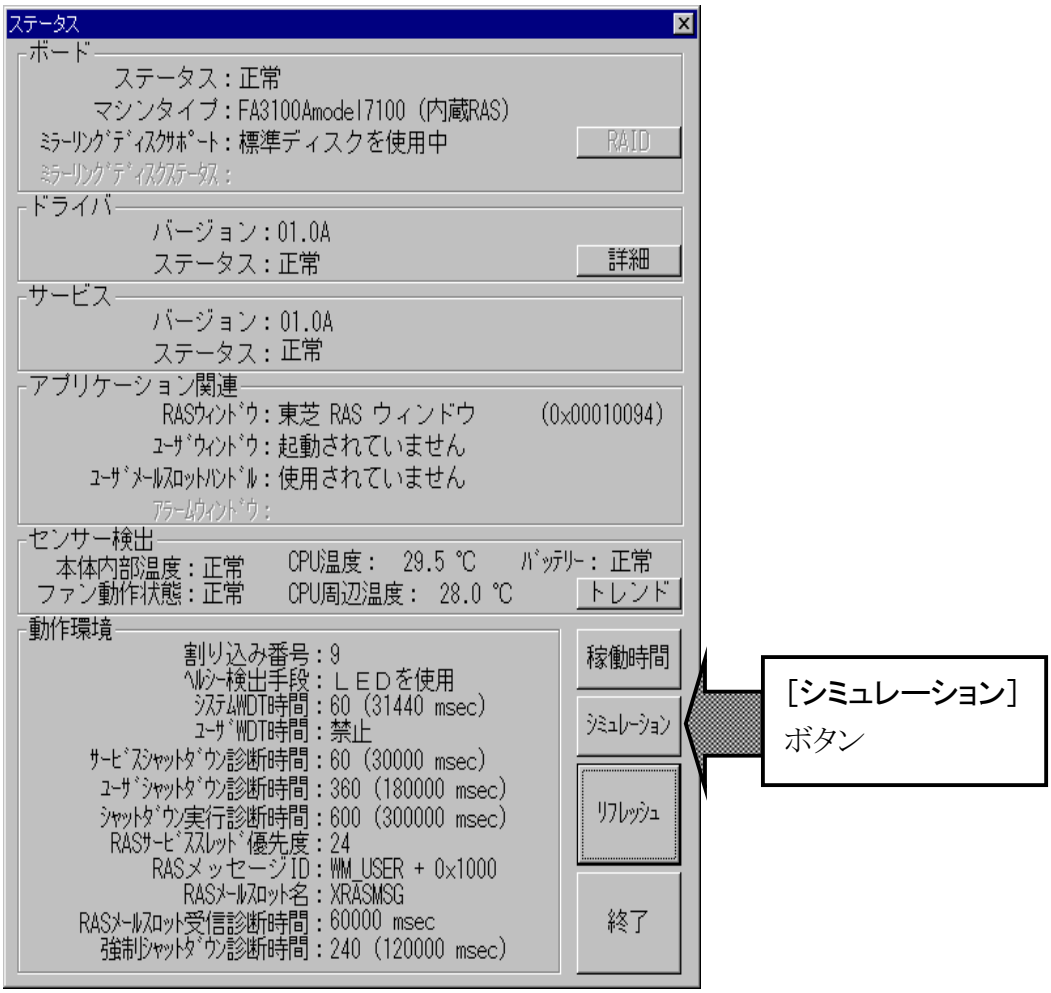

図1　「ステータス」ウィンドウ

すると、図2のような「シミュレーション」ウィンドウが表示されます。

この「シミュレーション」ウィンドウを開いている状態でアプリケーション（ユーザ作成）からシステムコールを発行すると、この「シミュレーション」ウィンドウで設定されている情報を読み込むことができます。また、アプリケーションでユーザウィンドウもしくはユーザメールスロットを設定しておくと、シミュレーションした結果のDI変化メッセージや異常メッセージ、回復メッセージも通知されます。

なお、DO出力コマンドをアプリケーションから発行した場合は、実際のDOに出力するのではなく、アプリケーションから要求したDO出力結果を「シミュレーション」ウィンドウの[DO（ディジタル出力）情報]に表示します。

この機能を使用することにより、DIのON／OFF状態、DOの出力状態、ファンの停止／回復状態、温度異常／回復状態、ミラーディスク状態、バッテリ状態、CPU温度、CPU周辺温度を容易にシミュレートして、実際のハードウェアを使用せずにアプリケーションで確認することができます。従って、アプリケーションのデバッグに大変有効です。

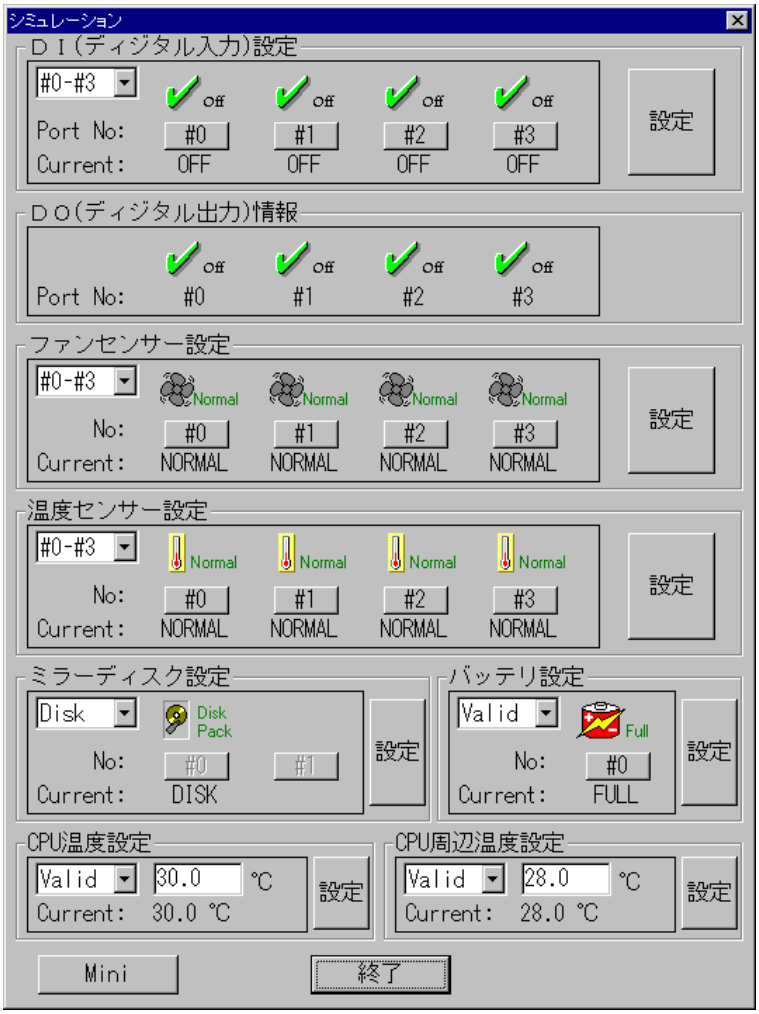

図2 「シミュレーション」ウィンドウ

(2)RASメモリ診断機能

オンライン中にRASメモリの診断を行い、異常を検出したらOSのイベントログ(イベントID:2206)に異常アドレス、書き込みデータ、読み込みデータをロギングします。この機能によりRASメモリの異常を判断できるようになりました。

（3）初期ユーザWDT機能

ユーザWDTは、アプリケーションにてWDT設定コマンドを使用してユーザWDTを設定し、WDTリセットコマンドを使用してリセットを行う必要がありましたが、今回追加された初期ユーザWDT機能を使用することにより、アプリケーションを作成、起動しなくてもユーザWDTを機能させることができるようになりました。

設定は「動作環境設定（ドライバ／サービス関連）」ウィンドウ（図3）の［ユーザWDT］で行います。

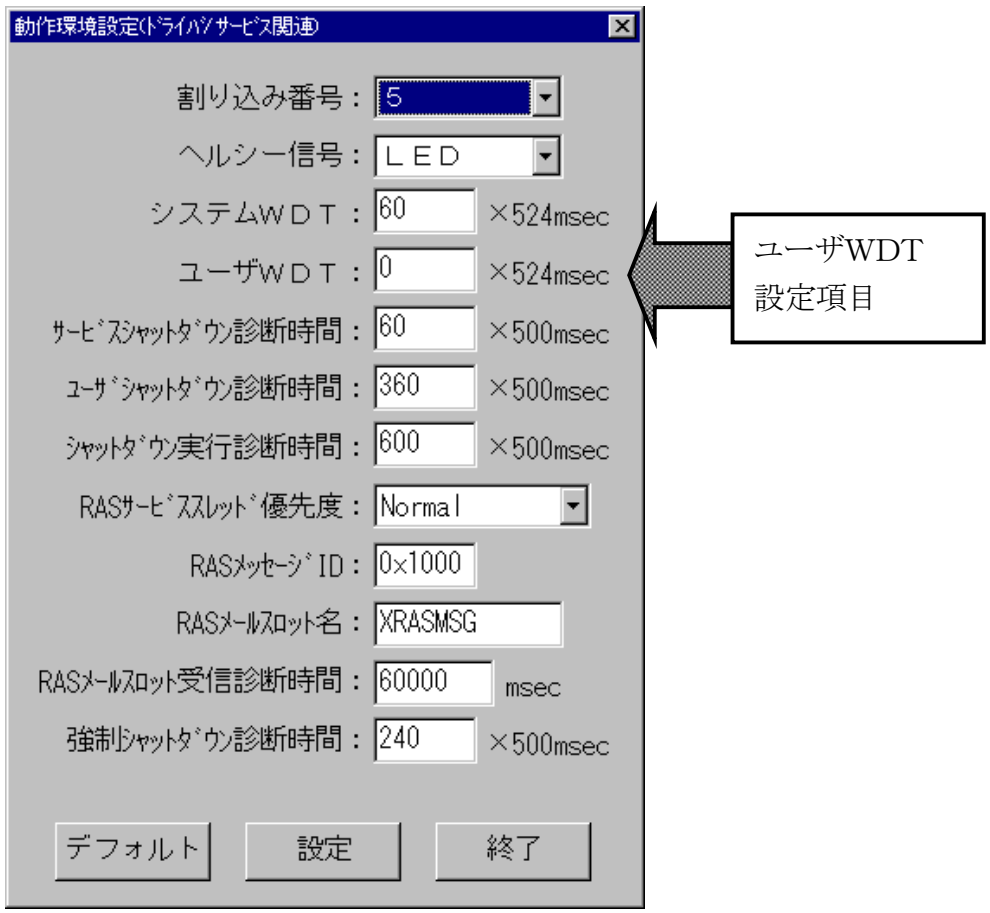

図3 「動作環境設定（ドライバ／サービス関連）」ウィンドウ

次回起動時からは、［ユーザWDT］項目で設定された時間でユーザWDTが自動的に起動、動作します。（設定値が0の場合は起動しません）

ただし、前回シャットダウン要因がこの初期ユーザWDTである場合（前回シャットダウン要因が、アプリケーションやRASウィンドウのWDTウィンドウで再設定したWDTのタイムアウトの場合は該当しない）は、正常にWDTが機能せずにシステムが立ち上がらないようになってしまうことを避けるため、一時的に初期ユーザWDTは起動しないようになります。この初期ユーザWDTのリセットはシステムリセットで実行されるので、ユーザリセットをアプリケーションで行う必要はありません。

(4)ユーザパワーオフコマンド

ユーザシャットダウンコマンドではOSがシャットダウン後にリブートしますが、ユーザパワーオフコマンドをアプリケーションで使用することにより、OSをシャットダウンした後、本体の電源を切ることができます。

ただし、このコマンドはFA3100A model5100とWindows2000の組み合わせでAPM機能を有効にし、かつ、FA3100A model5100をREMOTEモードで起動している場合のみ有効です。

それ以外の条件では、従来のユーザシャットダウンコマンドと同じ動作（OSシャットダウン後にリブート）になります。

以下にAPM機能を有効にする方法を説明します。

FA3100のBIOS設定とWindows2000のコントロールパネルの設定ともに必要です。

（1）ＢＩＯＳ設定

「POWER MANAGEMENT SETUP」画面中の以下の2項目を設定（確認）

・「Power Management」の項目が「User Define」（出荷時設定はDisabled）

・「PM Control by APM」の項目が「Yes」　（出荷時設定もYes）

（ＢＩＯＳ設定画面等については本体取扱説明書をご参照ください）

（2） Windows2000設定 （「コントロールパネル」での設定）

・「コントロールパネル」→「電源オプション」を起動する。

・画面中の［APM］タブを選択する。

・アドバンストパワーマネージメント項目中の［アドバンストパワーマネージメントを開始する」のチェックを付ける。

以　上